



県職員として観光に携わってきた経歴について語る阿部万寿夫さん(大分市)



大分大の今後について意見を述べる同大の学長相談役の石川公一さん(大分市)

大分大 経済学部 100周年

同窓生の思い

◇ 下 ◇

プロフィール 大分市出身。1984年に卒業。大学院経済研究科修士課程を修了し、86年に異入り、県東京事務所内のおんせん県おおいた課の初代課長や観光・地域振興課長、観光局長、同事務所長を経て今年3月に退職。4月から県産業創造機構の専務理事を務める。

プロフィール 中津市出身。1965年に卒業。66年に大分大経済学専攻科、68年に一橋大学院法学研究科修士課程を修了した。同年、県に採用され、過疎・地域振興対策局長、監査事務局長などを歴任。別府市助役、県教育長、県副知事を務めた。大分大では2010年から監事や、理事を担い、今年9月から学長相談役。14年から今年6月まで学部同窓会「四極会」の会長を務めた。

先行する学びが大事

前四極会長

石川公一さん(80)

【大分】「2010年から監事や理事などで大分大の運営に関わる。現在は学長相談役。大学の課題は、「少子化が進む中、国公立は、」

「気候変動といった国境を超えた課題、デジタルトランスフォーメーション(DX)など、世の中の潮流に先行する学びが大事。改革なくして明白はない。経済、経営に限らず幅広い分野を学べる環境を整えれば、学生一人一人の夢の実現に向けた支援ができるの

では」
「学部にと求めていることは、かつては教授が地域で簿記や会社経営に関する講座を開くなど、教員の姿が見えていた。現在も優れた研究をしており、もっとPRしている。大分の「知の拠点」として地域、社会に貢献する場をさらにつくってほしい。評価につながるはずだ」
(聞き手は指原祐輔)

失敗恐れず挑戦して

県産業創造機構専務理事

阿部万寿夫さん(61)

【大分】「県職員として20年以上、観光分野を担った。思い出は、「広報広聴課にいたころ、13年に『おんせん県おお

いた』のテレビコマーシャル(CM)がヒットした。14年に着任した東京事務所でCM『シンフロ』をPR。観光局長として19年の

「大分大経済学部を卒業して。」「県庁以外の異業種の人、幅広い世代の人にさまざまな局面で助けられた。そうしたネットワークをつくる場の一つが学部同窓会の四極会だった」
「学生たちに今、やってほしいことは、